

みがく。
かがやく。

号外!!

京都府立北桑田高等学校

〒601-0534 京都市右京区京北下多利町沢ノ奥15
tel 0771(54)0022 fax 0771(54)0310
http://www1.kyoto-be.ne.jp/kitakuwada-hs/

ごあいさつ
校長 佐藤 幸雄

Glorious



本校自転車部が、インターハイ総合優勝と共に、春の選抜大会、都道府県対抗（プレ国体）と三連覇の偉業を成し遂げました。また、吹奏学部は吹奏楽コンクール京都大会で金賞・府代表となり、関西大会へ進出。関西大会で見事銀賞を受賞しました。

そのほかにもこの夏、各部活動が活躍し、わずか300名の生徒からなる本校でこれだけの成果が上がるのかと、驚きと誇りの一緒になった感覚を味わっているところです。

保護者、地域の皆様からはこの間、さまざまに温かい応援、御支持を頂き、深く感謝いたします。生徒たちが勉強と共に部活動に集中して取り組み、自分たちの潜在能力をぐいぐいと伸ばしていけるのは、学校を取り巻く地域の温かい風土のおかげであり、保護者の皆様の優しいまなざしのおかげです。私たちはこの成果を地域の皆様に還元しながら、さらに一人ひとりの生徒の可能性を最大限に引き出すべく教職員一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

重ねて関係の皆様に深く感謝申し上げます。また、厚かましいですが引き続きの御支援をお願いいたします。

吹奏楽部 Congratulations!

- 8月5日 第46回 京都府吹奏楽コンクール
高校小編成の部 金賞受賞 京都府代表
- 8月24日 第59回 関西吹奏楽コンクール
高校小編成の部 銀賞受賞
- 自由曲「カルメン・ファンタジー」G.ビゼー作曲/鈴木英史編曲



吹奏楽部は1年生10名を新たに迎え、総勢34名で活動してきました。放課後はもちろん休日も朝8時半から夕方6時まで練習し、7月には2泊3日の強化合宿を行うなど、演奏レベルの向上に励んできました。その結果、創部以来初、念願の金賞を受賞し、さらに京都府代表として関西大会への出場権も獲得しました。関西大会においては残念ながら金賞には及ばず銀賞受賞となりましたが、関西大会出場という素晴らしい経験と、関西大会の演奏レベルの高さを実感したことが、部員にとって大きな財産となりました。また、今回の大会に向けて多くの方からの御支援をいただきました。この感謝の気持ちを音楽でお返しできるよう、今後の演奏活動に取り組んでいきたいと思っております。

部長からのコメントを紹介します。「今回のコンクールで、私たち吹奏楽部は多くの方に支えていただいているからこそ成り立っているのだと改めて感じました。保護者の方、地域の方、温かく応援して下さったすべての方への感謝の気持ちでいっぱいです。34名の仲間たちと、目標に向け頑張った今年の夏はかけがえのない思い出となりました。この素晴らしい経験を今後の活動に生かし、より良い演奏を目指します。」

農業クラブ 全国大会出場!



- 夏季休業中に第60回京都府学校農業クラブ連盟大会が行われました。
- 7月23日(木) 農芸高校にて測量競技会が行われ、2チームが出場。
- 7月24日(金) 京丹後市網野町にてプロジェクト発表に2チーム、意見発表に3人が出場。
- 7月30日(木) 農芸高校にて情報処理競技会が行われ、1人が出場。

● 結果

入賞者	2年 老朶千央	意見発表	食料・生産	優秀
	3年 寺坂悠里	意見発表	環境	最優秀
	3年 山口裕季	意見発表	文化・生活	最優秀
	3年 岩佐修治・中仲純平・田尻真志	測量競技		優秀
	3年 藤田夏子	情報処理競技		優秀



第57回近畿学校農業クラブ連盟大会が8月20日(木)、21日(金)滋賀県日野町で開かれ、各県代表の約280人が参加しました。

本校からは意見発表に2名が出場しました。「環境」部門で3年寺坂悠里さんが最優秀賞を受賞し10月7日(水)、8日(木)の両日、茨城県で開かれる全国大会に近畿代表として出場が決定しました。

● 結果

- 農業鑑定競技会「林業」部門
2年 金森 和、岡 泰誠(学校代表)
- 意見発表の部 「環境」部門
寺坂悠里(近畿代表)

2連覇

自転車競技部 『総合優勝』おめでとう!



祝



祝

【全国高校選抜大会、全国高校総体全国制覇2冠を達成して】

● はじまり

2年前の春入部した6名を前に「この学年で全国制覇をする」と宣言し取り組んだこの2年間。過去14年連続各種全国大会で入賞者を輩出し、近年は学校対抗で8位以内に入る実績を基に、確固たる目標として全国制覇を掲げました。北桑田高校は府内でも最小規模の全校300名程度の小さな学校です。しかし各方面できりりとかがやく実践をしてきた学校でもあります。森林リサーチ科の活躍や、府立高校でも屈指の国公立大学進学割合等、過去卒業生達が残した輝かしい実績を更に発展させようという明確な目標がありました。

● これまでの成績

平成19年夏の佐賀インターハイでは早くも1年生4名が入賞を狙ったものの届かなかったですが手応えを感じていました。20年3月の全国高校選抜では、複数の個人入賞を果たし学校対抗過去最高の総合5位に入賞しました。2年になった埼玉インターハイでも、個人5種目で入賞し総合3位に入賞しました。しかしこの大会では上位入賞を狙った団体追い抜きで失敗してしまいプレッシャーに負けました。十分な準備をしても本番で力を出し切ることの難しさと、全国制覇に向けた背負っているものの違いの差を見せつけられた大会でもありました。まさしく過去から積み重ねられた学校の伝統と言うべきものでした。

● 準備期間と結末

昨年の秋以降、練習の量、質共に更に上がりました。12月に宮崎であった全国高体連強化選手選考会で力がありながら選ばれないという苦杯をなめ、更に打倒伝統強豪校の目標に向け一丸になりました。

● ~Victory Road~

今年の冬は1月大雪が降り練習コースが積雪で思うように使えませんでした。しかし積雪のないところまで車で移動し毎日のロード練習をこなしました。1月から3月までの練習走行距離は7000kmを超えました。1ヶ月2500kmを目標に全国一の練習量で3月の全国選抜大会を迎えました。結果、ケイリン、スクラッチの2種目優勝、ロード、トラック2種目入賞で悲願の全国大会総合初優勝を飾りました。そのとき練習は嘘をつかないと実感し、適正な目標設定とそれに見合う努力の大切さを改めて感じました。選抜大会前練習から逃げ出そうとした者、故障と戦い強さと勇気をチームにくれた者、誰1人メンバーが欠けていてもチームが一つになることはなかったと思います。自分の弱さをさらけ出し、他の選手の強さや勝利への執念を学び高め合った結果だったと思います。



● 追う者から追われる者へ

4月から男子5名、女子1名の新人部員を迎えインターハイとの2冠を目指した取り組みが始まりました。初優勝の後いろいろな方から王者として守りに入らず夏のインターハイも獲れ、インターハイを獲ってこそ真の王者だ！と多くの激励をいただきました。夏のインターハイで総合を獲るといことは甲子園で優勝するのと同じです。全国の強豪校、伝統校、古豪、新興チームがありとあらゆる思いで勝利を目指します。北桑田は春の王者としてでなく夏の挑戦者として戦うことは当然でした。5月に北桑田から5名の選手が日本代表として韓国1周のステージレースに参戦しました。



帰国後3日で迎えた近畿ブロック予選では走りに精彩を欠きライバルの奈良榛生昇陽高校に1, 2, 3位独占されてしまいました。続く6月には2名がドイツに日本代表として参加。トラックの近畿大会では0.5点差で榛生昇陽を押さえ近畿大会を獲りました。その間8月の世界ジュニア選、アジアジュニア選の予選会であるジュニアオリンピックがありました。結果を残すことはできませんでした。このように毎週毎週予選会と海外遠征と合宿が続き、常に結果を出さないと次のチャンスが生まれないという状況の中、選手達は世界戦やアジア選の個人よりもインターハイの団体を選んでくれました。個人の成績よりも団体を選んだからこそ狙う試合を決め勝つための準備ができたのです。コマ何秒を争う自転車競技は繊細で心と肉体のバランスが合致しないと別人のような走りになってしまいます。だから常にベストを維持することは不可能です。そのことを理解していたことがこの夏の結果として出たことは間違いありません。奈良県で開催されるインターハイで地元榛生昇陽高校が3連覇という偉業を狙っていました。近畿大会でもこの7, 8年いつも勝ったり負けたりというライバルでしたがこの2年は後塵を拝してきました。

今年こそはという思いのもと、6月以降奈良競輪場の敵地ホームバンクに合宿に何回も出かけました。相手校の監督さんもガチンコ勝負を受けてくれ練習にも熱が入ります。世界戦で銀メダルを取った超高校級エースを筆頭に昨年の総合優勝メンバーが4名いる強敵です。でも北桑田も選手6名中5名が全国大会入賞者で気持ちでも負けていません。



● インターハイ初日

インターハイ初日、絶対的な自信と確信を持ったスクラッチレース予選。しかしまさかの予選落ち。選抜大会を制覇したときこの種目だけで14点稼いだ種目での0点確定に言葉をなくしました。あれほど仕上がっていた選手の別人かと思う切れのない走り。自転車競技の奥深さとプレッシャーという魔物によりチームの他の選手が目を見ました一瞬でもありました。

この後個人追い抜き、ポイントレース、4km速度競走、ケイリンと確実に決勝に進みました。

● インターハイ2日目

大会第2日目4km団体追い抜き競走予選。北桑田は持ちタイムにより2番シードの最終から2組目スタート。昨年この種目で入賞を逃し総合3位に甘んじてしまった種目です。北桑田より前の組のレースで2チームが北桑田のベストタイムより2秒良いタイムで既に走っています。チーム記録を更新しない限り北桑田の1位、2位決定戦進出はありません。作戦通り攻めて攻めて攻めまくる。高校記録を狙ってレースが始まりました。1km通過設定タイムより1秒早い。



2km通過設定タイムより3秒早い。3km通過まだ2秒上回っている。

会場のアナウンスも北桑田の走りに高校記録の予感と絶叫！あと2周。しかし隊列が乱れ残り600mで失速。結果予選4位で翌日の3, 4位決定戦に進むこととなりました。今回、学校からPTAや後援会、同窓会、生徒のみんながバスで応援に駆けつけてくれました。皆さんはどんな思いでこのレースを見てくれたのでしょうか。オーバーペース？作戦ミス？力不足？北桑田の団体が全国で通用するってすごい！いろいろな見方があったと思います。でも勝ちに行くということは攻めるということです。選手一同こんな熱い走りができて本当に満足でした。翌日は3, 4位決定戦。「相手校に勝つことよりもう一度高校記録を狙おう。」



高校記録が出たら自動的に3位入賞というミーティング通りレースは始まりました。結果は無念の高校新ならず。しかしレース後泣いているチーム員がいました。負けたから泣いているんじゃないでこんな熱い仲間と戦えて感動したと言って男泣きしています。このとき、今年は絶対総合優勝できると確信しました。まだまだ決勝レースが残っているのに満足感が選手達を覆っています。「これはいける。」その3年生達の熱い姿を見ていたチーム唯一の2年生が奮起しました。春の選抜大会で総合優勝に1点も貢献できなかった男が力強く熱い熱い走り、長距離の華ポイントレースでまさかの優勝。地元奈良北高校の絶対的な本命選手（アジア大会金メダル）を力づくで圧倒し9点を獲得。レース後、苦しさ喜びの中でわんわん泣きじゃくっていました。続く個人追い抜きで4位入賞、4km速度競走で4位入賞、ケイリンで2位に入賞し学校対抗31点でトラック総合優勝を勝ち取りました。



● インターハイ最終日

最終日鈴鹿サーキットに会場を移し個人ロードレースが行われました。榛生昇陽、大分日出暁谷、八戸工の強豪校と北桑田の争いに絞られていました。各校とも日本代表選手を複数名要し個人ロードレースというよりステージレースの様相。7名ほどの逃げ集団が形成されても各校1名ずつ送り込む。追走によりメイン集団が形成されても各校3名ずつの厳しいマーク合戦。近年まれに見る観客をうならせるロードレースとなりました。結果は、学校総合に直接関係のない2校の選手が逃げ出しそのままゴール。約100名ほどの大集団でゴール勝負となり榛生昇陽、日出暁谷のポイントで最小限に抑え北桑田高校が総合1点差で逃げ切り初優勝となりました。



● 栄光～Glorious～

表彰式でトラック総合と学校対抗総合優勝の優勝旗2本と優勝カップ、優勝盾を7つ授与され総合2位や3位の学校との雲泥の差を改めて実感しました。北桑田高校の名前は60回を超える大会史に永遠に残ることとなりました。まだ全国でその栄誉に浴した学校は38校しかありません。その中の1校として全国に永遠に名を残せたのです。

● 全国都道府県対抗自転車競技会「初優勝」

帰校して10日。今度は全国都道府県対抗自転車競技会が行われる秋田県で京都府チームが総合初優勝を飾りました。国民体育大会のプレ大会として開催されるこの大会は各都道府県成年、少年混成チームで各都道府県代表として戦うのですが、今年の京都は北桑田高校単独チームで参加し、1km タイムトライアル3位入賞、ポイントレース優勝、個人タイムトライアル3位、4km団体追い抜き第2位という好成績を収め44回目にして初優勝しました。

● そしてこれから・・・

このあと9月26日から新潟で開催される国民体育大会で京都チームの国体初優勝めざして最後の追い込みをします。いつも応援してくださる皆さんの期待に答えるべく一生懸命2009年の秋を熱く燃え尽くしたいと考えています。

9月14日から22日にかけて日本自転車競技連盟が日本代表として2年の徳田鍛造をクロアチアに派遣します。今年度北桑田から5名延べ8人目の日本代表海外派遣選手として一生懸命頑張りますので応援よろしくお祈りします。

